

協働評価シート

事業名		市民のまちづくり活動への市民参加促進事業		実施年度	平成22年度
部局		企画部		課所	秘書広報課
団体等の名称		NPO法人 にはま市民企画ノボック			
評価項目		評価者	評価	左の評価の説明	
相互理解	それぞれの特 性や立場を 理解し合 えたか	お互いの特 性や立場を 十分に認 識、尊重し て、事業を 実施するこ とができた かどうかを 評価。	団体等	A	市広報としての性格は常に配慮したが、特に制限を受けることはなかった。
			市	A	事業実施について、共通認識を持って取り組めた。
			相互協議 結果		
対等	双方が対 等に立っ ていたか	対等な立場 で協議、事 業実施がで きたかどう かを評価。	団体等	A	
			市	A	対等の立場で相手の立場を尊重した取り組みができた。
			相互協議 結果		
自主	市民の自 動的な活 動が尊重 されたか	自主的活動 を十分に活 かして事業 効果を増加 させたかど うかを評 価。	団体等	A	取材団体、放送内容等について、こちらの選択基準を尊重していただいた。
			市	A	
			相互協議 結果		
自立	市民の自 立化を阻 害しなか ったか	依存体質が 助長される など、市民 の自立化が 阻害される ことがなか ったかどう かを評価。 (新たな自 発的事業展 開につなが り自立化が 進んだ場合 はA評価)	団体等	B	事業費などの面で現状では事業化が困難なハートネットワークとの連携などによる自主事業に向けたステップと考えている。
			市	B	
			相互協議 結果		
目的共有	双方が協 働の目的 を共有し たか	協働事業の 目的は十分 に共有して 事業実施が できたかど うかを評 価。	団体等	A	オフィス事業による市民団体の情報収集・相互理解を活かした事業が実施できた。
			市	A	
			相互協議 結果		

情報共有	双方がお互いの情報を共有できたか	情報を十分に共有しながら事業実施ができたかを評価。	団体等	B	収録スケジュールなど作成が遅れがちなため、取材対象・テーマなどの情報共有が十分とはいえなかった。
			市	B	番組制作についての打ち合わせを行うなど、番組制作に関する情報を共有することができた。
			相互協議結果		定期的に打ち合わせをする時間をもう少し取るようにしたい。
公開	双方の関係を十分に公開できたか	全て公開され、利便性も高いかどうかを評価。	団体等	A	
			市	A	番組最後やインターネット動画配信の説明などに、協働事業であることを明記している。
			相互協議結果		
「相乗効果」が発揮され、独自で行うよりも効果的と認められるか		「相乗効果」が十分に発揮され、協働が効果的と認められるかどうかを評価。	団体等	A	互いの特性を活かした事業であり、大きな効果が認められる。
			市	A	「ノボック」のネットワークを駆使し、様々な市民団体のイベントや活動を紹介できた。
			相互協議結果		
市民の関心や参加意欲が引き出されたか、		十分に市民の関心や参加意欲を引き出す事業展開がされたかどうかを評価。	団体等	A	市民自身による活動情報の発信を市広報の枠で行うことは、情報発信力の拡大のみならず、市民の自主的な活動がすでに大きな「公益」を担っているということを広く伝える点でも大きな効果があった。
			市	A	
			相互協議結果		

事業の目的、目標が達成されたか、どのような成果があったか等（自由記述）

団体等	互いの特性、能力を活かした協働（役割分担）事業であり、市民単独では得られない大きな成果が認められる。行政広報への「市民参加」の枠を超えた「市民開放」ともいえる事業であり、今後も大いに活用させていただきたい。
市	当初の計画通り、特にトラブルもなく実施できた。市民団体の様々なイベントや活動を紹介することができ、視聴者からの問い合わせが増えるなど、市民のまちづくり活動への参加促進に貢献できたのではないかとと思われる。また、広報チャンネルにおいて、市民の登場する機会が格段に増えた。
相互協議結果	平成23年度についても、市民の活動を積極的に広報し、まちづくりへの市民参加促進、市民の登場による親しみやすい広報チャンネルを目指していきたい。

